



発行所
公益社団法人 国民文化研究会
(九州←→東京←→全国)
東京都渋谷区東1-13-1-402
振替 00170-1-60507
電話 03-5468-6230
F A X 03-5468-1470
https://www.kokubunken.or.jp
E-mail: info@kokubunken.or.jp
月刊「国民同胞」編集部
毎月一回10日発行
購読料 年間2000円

「あしきた合宿セミナー」を終へて

―第六十九回全国学生青年合宿教室《九州会場》の開催―

吉村浩之

七月二十六日から二泊三日の日程で、熊本県芦北町の「あしきた青少年の家」にて、第六十九回全国学生青年合宿教室《九州会場》が開催された。これは九月六日から二泊三日で開催予定の《本会場》合宿(於・東京八王子市、大学セミナーハウス)に先立つもので、主題は「日本人としての働き方、くらし、生き方」であった。このテーマは現在の学生青年が親しみやすいものをとのことで掲げたが、残念ながら参加者は十二名に止まった。しかし、講義・講話、質疑応答、フリートークと三日間に亘った研修は密度の濃いものであった。

七月二十六日から二泊三日の日程で、熊本県芦北町の「あしきた青少年の家」にて、第六十九回全国学生青年合宿教室《九州会場》が開催された。これは九月六日から二泊三日で開催予定の《本会場》合宿(於・東京八王子市、大学セミナーハウス)に先立つもので、主題は「日本人としての働き方、くらし、生き方」であった。このテーマは現在の学生青年が親しみやすいものをとのことで掲げたが、残念ながら参加者は十二名に止まった。しかし、講義・講話、質疑応答、フリートークと三日間に亘った研修は密度の濃いものであった。

現場がこの三十年間で、どのやうに変遷したか、そして今後の展望についてお話を頂いた。四十年ほど前に、国内の流通業者が中国に蘭草の栽培方法を教へて、そこから安価な蘭草製品を輸入することによって国内の蘭草生産地が窮地に陥った。さらに国内においても建材メーカーが開発した化学豊(樹脂製の豊表)が消費者に受け入れられる精神的土壌には、新たな脅威を感じると述べられた。

最後に先生は、母校の先輩である豊住和壽海軍少佐(回天の搭乗員として昭和二十年一月二十一日ウルシーにて戦死)の御母堂の手記である『朝霧に消えた白い手袋』を朗読された。我が子を熊本駅で見送る際に、「安心して征つておいで」との言葉を掛けたが、もっと母親らしい言葉を掛けてやれなかったのかと、ずつと悔やまれてゐるとの内容に、母親の真情が伝つて来て皆の胸を打った。車窓から挙手の答礼をする白い手袋を忘れる事が出来ないとの手記の紹介であった。